

平成 24年度センターご利用状況 (8月末日現在)	
登録団体数	125団体
会議室利用件数(延べ)	180件
利用人数(延べ)	3,037名

4号の内容

【第1面】

- ・ボランティア活動への
第一歩を学ぶ
- ・ボランティアリーダー
をめざそう！

【第2面】

- ・ボランティア・NPO
団体パネル展もあつ
わすか！
- ・万里一空(コラム)

【第3面】

- ・地域ではぐくむ
子どもたち

【第4面】

- ・【シリーズ】NPO っ
て何だろう！？
- ・あとがき

ボランティア活動への第一歩を学ぶ



大阪ボランティア協会の梅田純平さん



クイズに答える参加者

7月1日(日)にこれからボランティアを始めようという方を対象に「はじめてのボランティア講座」を開催しました。講師には大阪ボランティア協会の梅田純平さんをお迎えし、18名の参加者の皆さんと、ボランティア活動を始めるときのポイントについて学びました。

講座では様々なボランティア活動の事例がクイズ形式で紹介され、ユニークな活動には参加者の方からもおもしろい驚きの声があがり、皆さん楽しみながら理解を深めておられました。

講座終了後には、早速窓口でボランティア活動先をご紹介させていただき参加者の方もおられ、今後、ボランティア活動の輪が広がることに期待がもてました。

ボランティアリーダーをめざそう！



ホリスティック教育実践研究所の^{きむかゆり}金香由里さん



ワークショップで他団体との交流も図れました

7月30日(月)に「ボランティアグループ講座～組織をつくり、メンバーの力を引き出そう！～」を開催しました。講師には、ホリスティック教育実践研究所の^{きむかゆり}金香由里さんにお越しいただき、ボランティアリーダーによるメンバーの力の引き出し方について16名の参加者とともに学びました。

リーダーにとって大切な人間力・社会力・対話力を解説していただき、参加者の皆さんには、それらについてワークショップを通じて実践していただくことができました。

受講後は、参加者から「日々活動に追われていたが、自分を見つめ直すことができた。心にゆとりをもち活動していくよう心がけたい。」という声も聞かれ、メンバーとの接し方や自身の心の整え方を十分に理解していただくことができ、今後の活動につなげていただけるものと感じました。

ボランティア・NPO 団体 パネル展もあとわずか！



6月7日から約3ヶ月間、多くのNPO・ボランティア団体の方の手によってセンターをにぎやかにしてくれたパネル展もそろそろ終盤をむかえております(9月10日まで)。

次号には展示団体や来館者からのアンケート結果をお伝えするつもりです。多くの方々から寄せられたご意見を反映させて、次回のパネル展につなげたいと思います。

万里一空

第4回

「手わたすものと受け取るもの」

ボランティアコーディネーター 佐藤智子

「またききたいです。つぎはいつ来てくれますか。まっています。」

心がとろけてしまうような、胸がきゅんとなるような、こんなお手紙をいただきました。

子どもたちと一緒に「おはなし」や絵本を楽しむボランティアをしています。やればやるほど、奥が深いと感じます。子どもたちに「何をどう手わたすか」ということに尽きるのですが、これがなかなか……。

自分が聞いて、あるいは読んでいておもしろいと思うもの。これも本を「選ぶ」大事な基準ではあるのですが、大人である私が感動しても、子どもにとっては、「ふーん」でしかないこともあります。また逆に、大人の感覚ではシンプルすぎてその良さを見落としてしまいがちなものでも、子どもたちはしっかり受け止めていることもあります。(そういう場合、実は骨格がしっかりしているというものが多いのですが)

<大人の目線ではなく子どもの目線で><子どもたちの心の滋養になるような>というフレーズが頭の中でぐるぐる……。

1冊の絵本を選ぶのにも、絵と言葉のバランス、会場によっては絵本自体の大きさや、絵の分かりやすさにも気を配る必要があります。「おはなし」の場合、一つの「おはなし」を、何も見ないで人前で語れるようになるまでに数ヶ月かかります。その挙句にそっぽを向かれたときの情けなさといったら……。そういう失敗をしたくないためにも、「選ぶ」ことには慎重になります。



地域でのおはなし会

もちろん選んで終わりではなく、その語り方、読み方も汗と涙の研鑽練磨を積むわけで…(少々オーバー！)。練習会の段階では覚えこんでいたはずの「おはなし」が、語り半ばで突然消えてしまい、頭の中が真っ白！！という、思い出したくもない悪夢のような体験や、先輩や仲間からいただいた温かくも辛らつな感想に眠れない夜を過ごしたり…。

それもこれも、みんなと一緒に笑ったり、はらはらしたり、ほっとしたりという「同じ釜の飯を食う」ならぬ「同じおはなしを味わう」体験は、何か大事なことに繋がると思うから。親でも先生でもない“第三の大人”が「あなたたちと楽しい時間を過ごしたい」と思っていること(これって「愛情」っていうモノだと思う)を子どもたちに伝えたいから。それだけ。

冒頭のお手紙は先日「おはなし会」にうかがった小学校の2年生からいただいたものです。いいでしょ。

自慢ついでにもう一つ。

「またいつかぜひたいきてほしいです。おもしろいのにしてください。」

地域ではぐくむ子どもたち

総合コーディネーター
虎杖 徳明 さん



地域の宝を
育てよう！

～地域の宝を育てる応援団

SAKURAネットワークの活動～



今回インタビューをさせていただいたのは、都南中学校区地域教育協議会の総合コーディネーターを務められている 虎杖 徳明(いたどり のりあき) さん。中学校のPTA会長を経験し、NPO法人の理事長としても、不登校等で悩む親子のために学校にカウンセラーを配置する事業を行なうなど教育に関わる活動をされています。地域の人たちや学校の先生と手を携えて活動する都南中学校の地域教育の現場についてお伺いしました。

一 都南中学校区地域教育協議会としてどういった取り組みをされているのでしょうか？

ドリーム
SAKURA 夢 フェスタというイベントを開催しています。昨年の2回目は県立奈良朱雀高校の和太鼓「秋篠」や、他校の吹奏楽部の演奏、各小学校区等の模擬店もあり、充実した内容になりました。フェスタの最後には綱引き大会があり、小学校区別に分かれて小学生・中学生・大人の部で行なうのですが、地域が結束して戦っている様子が面白く、とても盛り上がりました。



一 フェスタの模擬店で、カレー都南とナンというものがお店していましたが、これは何なのでしょう？

これは文部科学省からの委託事業で、協議会として子どもたちと一緒に、地元の食材を活かした学区ブランド製品づくりを行なった事業です。昨年のフェスタでは模擬店を出して地元の方々にも食べていただきました。

この取り組みは、キャリア教育の一環として、生徒会やいくつかの部活動の生徒たちを中心に話し合い、「何を食べたい？」とか「地元の食材は何があるだろう？」とか子どもたちの思いを引き出せるように気を配りながら進めていきました。そうすると、子どもたちの多くが好きな食べ物がカレーだったので、知人のスリランカ人

の方に、子どもたちにカレーやその国の文化についても教えてもらいながら、カレーライスではなく、都南(とナン)のナンをもじって本格的なスリランカ風カレー都南(とナン)を作りました。1年目の春には、地元食材を取り入れようということでイチゴをナンに混ぜ込み、2年目の秋には柿の皮の粉末をナンに混ぜ込みました。

フェスタ開催前日は、地域の人たちにも手伝って頂き、子どもたちに包丁の握り方から教えながら一緒に仕込みをしていただきました。自分たちで作ったカレーを地域の人たちや友達が食べてくれると、子どもたちは知っている人に認めてもらったという気持ちになったようです。

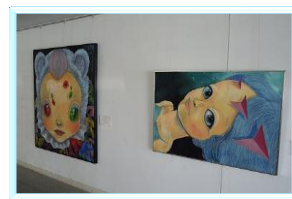


カレー作りに協力して
くださる地域の方



一 都南校区の活動には他にどういったものがあるのでしょうか？

「都南の森」という文化活動があって、年に数回イベントに合わせて、中学校玄関をギャラリーとして開放し、彫刻や絵画などの芸術作品を「楽芸員」(学校支援ボランティア)に展示してもらい、子どもたちや地域の人たちが芸術に触れる機会にしています。作品を見学するために地域の人が学校を訪れてくれることで、地域と学校の垣根が少しずつ低くなっていると感じます。



展示した「楽芸員」の方

一 これからの都南校区の地域教育を進めるにあたり考えていることはありますか？

先日、地域学校連携の先進地視察として横浜市立東山田中学校にあるコミュニティハウスという施設を見学してきました。これは学校の敷地内にある公民館のような施設で、地域の人たちの様々な活動の場となっていることから、学校の中にあるという利点を活かして、地域の人たちが子どもたちと交流できる環境がありました。視察先では、囲碁をされている方が、時々学校の子どもたちに教えに行ってくれているという話も伺い、すごく参考になりました。協議会としても検討課題は多いと思いますが、学校に自然と地域の人たちが集まれるような場所ができればいいなと思っています。

【シリーズ】NPOって何だろう？

事業をする上で、団体をNPO法人化したほうがよいのかどうかは、十分に考えなければなりません。「行政から補助金や仕事もらえるのかな?」「一度認証を受けたら後は、ずっと有効なの?」など、法人化をするメリットに誤ったイメージを持つ人も少なくありません。NPO法人化には、それぞれメリットと義務があります。

メリットには、「法人名による契約や不動産の所有、銀行口座の開設ができる」「社会的信用が増す」などがあります。

義務としては「毎年会計や事業報告を所轄庁に提出する必要がある」「設立時に提出書類が多く手間が面倒」「解散時に残った財産を分配できない」などが挙げられます。

NPO法人化すれば契約主体を個人から団体に切り替えるこ

とができ、情報公開することで、市民からの信頼を得やすくなる一方、提出書類や届出など、様々な責任と義務も生じます。そのため、それらの事務ができるだけの労力や時間があるかどうか、事前に考えておく必要があります。

法人化した方がよいかどうかは、自分たちの組織や活動の状況によって異なってきます。NPO法人化は、それ自身が目的ではなく、あくまでも手段です。団体を立ち上げたらすぐに法人化ではなく、まずは任意団体としてスタートして、事業や活動が軌道に乗ってからNPO法人化しても、遅くはありません。じっくりと検討してみたいはいかがでしょうか？



※駐車場の駐車台数には限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用下さい。
(満車の場合は、周辺の有料駐車場をご利用いただくようお願いいたします。)

【あとうき】

当センターも、オープンして早くも1年と半年が過ぎようとしています。おかげ様で、団体や市民公益活動に関心をお持ちの方などにご利用いただいておりますが、まだまだ場所も含めて市民の皆様には知られていないのではないかなと考えています。

「多くの市民公益活動をされる方々の助けになることで、少しでも市民の皆様のお役に立ちたい。」この気持ちを忘れずに、当センターは開館していますので、暑さしのぎも兼ねて、ぜひお気軽にお越し下さい。

奈良市ボランティア インフォメーションセンター

〒630-8122
奈良市三条本町13番1号
はぐくみセンター
(奈良市保健所・教育総合センター)1階
開館時間:
9:00~21:00(月~土曜日)
9:00~17:00(日曜・休日)
休館日:年末年始
TEL:0742-93-8435
FAX:0742-34-2336
MAIL:volunt-info@city.nara.lg.jp



奈良市ボランティアインフォメーションセンター 検索

